

項の具現化と言語理論：様態・結果の相補性仮説のその先へ（発表者決定済み）

企画者：臼杵 岳（京都産業大学）

動詞の項構造の具現化に関して提案された「様態・結果の相補性仮説」は動詞の語根に焦点を当て、その後も様々な観点から議論されている（Ausensi (2024), Beavers and Koontz-Garboden (2012, 2020), Levin and Rappaport Hovav (2010), 他）。一方、従来よりも世界知識と結びついた動的なレキシコンを仮定することで、多様な動詞の項構造の具現化に関して新たな説明が与えられる可能性も示されてきた（Pustejovsky (1995)）。そこで、本ワークショップでは、近年の様態・結果の相補性仮説に関する議論や生成語彙意味論の枠組みでの分析などに基づき、項の具現化に関して新たに理論的な説明を与えることを目指す。具体的には、語根自体が持つ意味素性・事象構造へのリンキング・動詞以外の範疇が導入する項、という 3 つの観点から項の具現化に焦点を当てることで、統語論のみでは捉えきれない部分を語彙意味論・形態論で補完する可能性を探る。Q&A セッションではフロアの皆さんと本研究題材に関して建設的な議論が出来ることを期待している。

節性の観点から見る周縁部の構造と節領域について：極小主義プログラムの 30 年をめぐって（発表者決定済み）

企画者：宗像 孝（横浜国立大学）

本ワークショップでは、周縁部（C 領域および TP/Infl 指定部）に見られる言語事象や統語構造を再検討し、許容される統語操作や意味解釈を手がかりに、周縁部の機能と役割を洗い直した上で、Chomsky (2024/MC) によって提案された節領域を派生するメカニズムを探求し、(1) の原理 T 及び節性（clausal properties）の本質を明らかにすることを目的とする。

- (1) [T] All relations and structure-building operations (SBO) are thought-related, with semantic properties interpreted at CI. (Chomsky 2024: 22)

本ワークショップでは以下の点を明らかにする。第一に、周縁部に見られる言語事象を、節領域の核となる節性および原理 T に基づいて精査し、周縁部の特性を整理する。第二に、細分化により機能・役割が曖昧になっている周縁部と節領域を関係づけ、原理 T を基盤として節領域に求められる機能・役割を再考し、その特性を明らかにする。その上で、周縁部における CI (Conceptual-Intentional System/概念思考体系) の意味解釈の過程について追及する。最後に、節領域に対応する統語構造の構築手順を検討し、構造構築の観点から節領域の特性を見極めていく。これらを通じて、節領域の一端を明らかにし、命題領域に基づく節領域の構築および項の移動を伴う節領域のマッピングを分析する。そして、CI の出力を形成する統語メカニズムの本質に迫ることを目指す。